

第 15 回大宮区民会議 議事録

1. 日 時 平成 31 年 1 月 18 日(金) 10 時 00 分～11 時 30 分

2. 会 場 大宮区役所1階多目的室

3. 出席者 20 名

(委員) 14 名

花俣淳一会長、池上明彦副会長、横山千恵子副会長

新井陽子委員、大野敏子委員、齋藤泰雄委員、仙石玲委員、登坂篤委員、

野瀬加代子委員、藤田信一委員、星野美子委員、松岡忠男委員、松本よしの委員、

村上隆子委員

(欠席委員) 4 名

井上恵美子委員、小倉京子委員、武田千春委員、田代秀一委員

(オブザーバー) 1 名

阿久津 (副区長)

(事務局) 3 名

佐藤(コミュニティ課長)

粕谷、佐伯(コミュニティ課)

(コンサルタント) 2 名

森、白木(㈱社会構想研究所)

4. 内容

(1)開会 花俣会長

(2)協議

「第 8 期大宮区民会議をふりかえって(2 年間の総括と区長への提言事項の確認)」

- * 2 年間の議論で哲学は出来た。今後は具体的に図面に落とし込む肝心な作業に移る。ボールは行政に投げられたのだから、区長は区民のために再開発・公共用地活用に取り組んでいただきたい。
- * 要は、市と県の所有地に区がどのような方針をもって関与するのかということ。特に重要なのは、大宮区にある貴重な文化・観光資源(例えば大宮公園、鉄道、青木昆陽、片倉製糸工場跡地等々)についてもっとPRを行い、区の特徴をアピールすべきだろう。なぜなら外の人間が大宮区をどう見ているのかについてもっと敏感であるべきだし、その決断をしないと、大型施設が今後も集積していくことが見込まれる「新都心」地域に比べ地盤沈下が甚だしくなることを否めない。とにかく早く手を打つべきと思う。
- * この報告を画餅に終わらせないためには、タコつぼ化している現状を変えることのできる、実効性を持ったものを何か一つでも実現できるよう行政には頑張っていただきたい。また、県議、市議の皆さんには「区」の今後についてもっと勉強し、明確なヴィジョンを示

していただけるとありがたい。

- * 住民としての意思形成の仕組みを勉強できたことが良かった。町全体の今後を決める仕組みづくりが肝要だが、とりわけ住民自らが自前でチェック体制をつくり、機能させて、広く市民に伝達できるかどうか成否のカギになると思う。
- * 区民の立場から公共用地の活用を考えるというスタンスが色々な意味で参考になった。このように住民が主体となって大宮区をもっと区民が暮らしやすい街にしていければ、と思う。
- * 様々な団体、グループが集まって共通し話す土俵が、区民会議としてできて本当に良かった。しかもその場に6年間継続して参加でき、大変勉強になったし、ありがたく思う
- * 再開発を考えるには、各分野ごとに問題点を洗い出し、時間をかけて結論を出すという地道な積み重ねが必要なのではないか。
- * 具体化が可能な「市民としての哲学」は出来たように思う。しかし、実現のプロセスには行政や議会が関与するのは当然なので、提案がストレートに実現することは困難かもしれない。とはいえ、住民としての再開発に対する考え方、希望の基本はまとめられたので、区長に提言の上、活かし方を考えていただければ幸いです。
- * 私たちの提言を受け、大宮区を愛する人が増えてくれれば、と思う。

花俣会長

「皆さん、2年間ご苦勞様、そしてありがとうございました。区から、県や市に私たちの思いを伝えていただければ。昔から良薬は口に苦し、ともいうとおり、行政の方も少々耳の痛い点もあるかもしれないが、区民の大宮区を愛する心を理解して欲しいと思う。」

5. 次回予定

第16回 2月27日(水) 15時 ~17時

以 上